

# 第 34 回日本ハンドセラピー学会学術集会抄録原稿作成の手引き

第 34 回日本ハンドセラピー学会学術集会抄録作成の手引きです。

下記の内容を遵守し、投稿してください。

## 【手順】

1. 抄録作成フォームをダウンロード入手し、必要情報を入力する。
2. 必要情報を入力した抄録フォームをファイル名「応募演者名 (.docx)」で保存する。
3. 保存した Word ファイルをウイルス対策ソフトなどでチェックし、問題なければ演題・抄録オンラインシステムよりアップロードする。

## 【フォントおよび文字サイズ設定】

- フォントは MS 明朝，文字サイズは 10.5pt とする。
- 句読点は全角カンマ『，』と全角ピリオド『.』に統一する。
- 英数字は半角に統一する。
- 文字化けを防ぐために囲み文字，ローマ数字，単位記号，省略記号は使用せず，半角英数字などで代用する。

※以下の各入力は，ダウンロードした抄録作成フォーム内にて，行数が指定されています。それを超過しますと実際の抄録に掲載できないため，査読対象外となります。指定行数は変更されずに入力をお願いいたします。

<各テキストボックスの文字数の目安>

1. 和文タイトル：全角 33 文字 × 2 行
2. 本 文：全角 40 文字 × 30 行

## 1. 【演題名の入力】

- 演題名は，和文タイトル，英文タイトルそれぞれ記載する。
- 演題名（副題を入れる場合は，副題込）は，最大 2 行以内とする。
- 副題を入れる場合はその両端に全角マイナス『-』をつける。
- 英文タイトルでは，タイトルとサブタイトルの最初の単語スペルの先頭を大文字にする。
- 英文タイトルでは，接続詞，冠詞以外の単語スペルの先頭を大文字にする。
- 英文タイトルの文末にはピリオド『.』はつけない。

(例) Early Active Mobilization after Flexor Tendon Repair—A Systematic Review—

## 2. 【演者名の入力】

- 演者名は、筆頭演者を含み最大で5名（筆頭演者1名＋共同演者4名）までとする。
- 筆頭演者は、英語名も記載してください。なお、「名」「姓」の順とし、先頭文字は大文字とする。
- 氏名の後ろには、OTR, RPT, MD などをつけない。
- 氏名の後ろには、次に記載する所属名にあたる番号を『上付き数字』にて付記する。

## 3. 【所属名の入力】

- 所属名は最大5施設とする。
- 所属名の後ろには、対応した番号を『上付き数字』にて付記する。

## 4. 【Key Words の入力】

- Key Word は必ず3つ（第1Key Word 含む）記載する。
- 第1Key Word は下記から選択し記載する。

| 第1Key Word | 備考                                    |
|------------|---------------------------------------|
| 骨折         | 橈骨遠位端骨折, 指骨折, その他の骨折                  |
| 軟部組織損傷     | 外傷性末梢神経損傷, 腱損傷, 靭帯損傷                  |
| 複合組織損傷     | 切断肢（指）再接着                             |
| 絞扼性神経障害    | 手根管症候群, 肘部管症候群                        |
| 炎症性疾患      | 関節リウマチ, 狭窄性腱鞘炎, 上腕骨外側上顆炎              |
| 評価         | 機能評価                                  |
| 基礎研究       | バイオメカニクス, 運動生理学, 神経生理学                |
| スプリント      | スプリント                                 |
| 実践報告       | 症例報告                                  |
| その他（ ）     | *その他を選択した場合は, () 内に適切な Key Word を記載する |

## 5. 【本文の入力】

- 【緒言】、【目的】、【方法】、【結果】、【考察】などの内容にあった小見出しを付け、その両端は【】をつけて囲む。
- 2つ以上の小見出しを1つにする場合は、【対象・方法】のように全角中点『・』を使用する。
- 小見出しに続いて改行せずに、続けて本文を入力する。
- 次の小見出しの書き始めは必ず改行し、小見出しがすべて左側に揃うようにする。
- 本文中に図表は挿入しない。
- 現行は常用漢字、新仮名づかい、新医学用語を用い、かつ「整形外科用語集」および「手外科用語集」に準ずる。

以上